

能登キャンパス推進協議会「能登・祭りの環」関係人口創出事業

団体名 ● 「能登・祭りの環」関係人口創出事業実行委員会 / 代表者名 ● 池田幸應(人間科学部スポーツ学科・教授)

はじめに

全国的に地方での過疎高齢化が急進し、奥能登地域でもその傾向は加速しており、地域コミュニティの存続可否が深刻な課題となっている。奥能登地域では、多くの地域独自の「キリコ祭り」が伝承されており、地域コミュニティの維持、そして地方創生の視点からも、その継承及び次世代人材の確保・育成が重要である。石川県では、2011年3月に「能登キャンパス構想推進協議会」が設立され、「能登・祭りの環」インターンシップ事業がスタートし、本年度より「能登・祭りの環」関係人口創出事業として継続実施されている。

活動内容

「能登・祭りの環」関係人口創出事業は、県内高等教育機関に在籍する学生が、事前に奥能登や祭りについて学習した後、人口減少が進む奥能登の祭りに担ぎ手として参加することにより、奥能登の伝統文化に触れる学びの場を創出し、また、奥能登地域の関係人口創出のため、学生が継続的に奥能登と接点を持てるようにする機会を創出する事業である。

しかし、昨年度同様、今年度も新型コロナウイルス感染の社会状況のため、予定されていた奥能登2市2町の4つの対象祭りがすべての実施中止となったため、短期・当日インターンシップは中止とし、長期インターンシップは祭りへの参加の代わりに、現地活動として祭り関連体験や地域の方との意見交換を実施した。今回の参加学生は、3大学(金沢星稜大学、北陸大学、北陸学院大学) 13名であった。

5月14日事業ガイダンスおよび5月28日キックオフミーティングをはじめ、6月11日より1月30日までの期間で全11回の講座と奥能登2市2町の4つの祭り地域への現地活動が実施された。

特に輪島市(10/17(日)横笛作成体験、山車の見学)、能登町(10/30(土)太鼓体験、神輿・キリコの見学)、穴水町(11/7(日)太鼓体験、神輿巡行ルートの確認)、珠洲市(11/13(土)祭りの浮き字作成体験)の現地活動では、直接地域の祭り関係者(主催者、青年

団など)へ祭りに対する想いや現状と課題についての意見交換が行われ、1月30日の「意見交換フォーラム」では、学生の活動報告、本事業参加学生OBの発表、グループ毎の「祭りの継続に向けた奥能登の関係人口創出策」の提案がなされた。



写真 穴水町沖波地区での青年団との交流の様子

成果、結果の考察

新型コロナウイルス禍により、祭りが中止となり、実際にキリコ等を担ぐことができず、地域の方々との交流や祭りへの直接参画活動は規制されたが、学生たちにとって奥能登の地域文化に触れ、関係人口創出策について調査、検討、提案等を通して学ぶ大きな機会となった。

今後の課題、展望

「学都いしかわ」の特徴を活かし、実践的学びの効果的な事業として、学生たちが過疎高齢化の急進する奥能登地域への関係人口創出に向けて学び、提案するためにも、県内外の複数大学の連携・協働による更なる事業の継続・発展を期待したい。